

ボロンスキー (Bolonskii) 自然保護区域の「キルプ」 (Kirpu)

森林保護監視所周辺の二次林の地理植物学的な研究

1. 自治体名 : ハバロフスク地方
2. 発表者名(所属名) :
 - 1) コルキン・エヴゲニイ (Korkin Evgenii)
(アムルスク市第3号総合学校)
 - 2) アフティヤイネン・ヴラドレン (Ahtiyainen Vladlen)
(ハバロフスク市第10号総合学校)
 - 3) ヤロシ・アンナ (Yarosh Anna)
(ハバロフスク市第10号総合学校)
 - 4) ボルトゥルシコ・マリヤ (Boltrushko Mariya)
(ハバロフスク市第12号総合学校)
 - 5) ティツィック・アナスタシア (Titsik Anastashia)
(ハバロフスク市第19号総合学校)
 - 6) メジョヴ・コンスタンティン (Mezhov Konstantin)
(アムルスク市第5号総合学校)
3. 活動名 : ボロンスキー (Bolonskii) 自然保護区域の「キルプ」 (Kirpu) 森林保護監視所周辺の二次林の地理植物学的な研究

4. 講演概要

地球では、森林にかかわりが無い人間は一人もいない。しかし、その森林は年とともにますます保護を必要としている。失われたものの復活も必要としている。この大きな森林は我々の宝物である。

現在、森林伐採の本数は、植樹した本数より数倍になっている。火災によって、森林は大きな被害を受けている。森林火災の97%は人の手によって発生しているものである。

多くの国々では、植樹による森林の再生、森林での経済活動禁止などの点を重視している。

森林資源という面では、極東地域はロシア連邦の中で、主導的な地位を占めている。ハバロフスク地方の面積の67%は森林である。ハバロフスクの経済においては、林業は最も重要な分野の一つである。

また、森林再生という分野において、他のロシアの地区の中で、ハバロフスク地方は指導的な地位を占めている。木材調達、森林火災の消火、森林再生等のために、新しい技術が取り入れられている。

ハバロフスク地方の青少年は森林再生や植物調査に参加している。2010年5月—6月、ボロンスキー (Bolonskii) 国立自然保護区域では、「キルプ」 (Kirpu) 森林保護監視所の植物群落の研究を含む青少年環境探検「フォルミカ」 (Formika) が行われた。

主な目的 : 「キルプ」森林保護監視所の植物の多様性の確定

研究の課題 : 「キルプ」森林保護監視所の森林

研究の対象 : 「キルプ」森林保護監視所の地理植物エリアの植生

活動の際、地域の状況に適応した地理植物学の基準方法を利用した。調査エリアを設定し、方位を示す平面図を作成した。

地理植物エリアでは、第1階層、第2階層、第3階層 (高木層、亜高木層、低木層) の植物多様性は9種の樹木で構成されている。

それはこの地域で植物の多様性が低いことを証明している。生育しているイヌエンジュ (*Maackia amurensis*) とモンゴリナラ (*Quercus mongolica*) は満州植物界の代表である。針葉樹はこのエリアで生育していない。

地理植物エリアにおける若木の茂みの調査によって、「キルプ」の森林が広葉樹として成長していることが分かった。森林は広葉樹によって再生され、針葉樹がない。活動中指摘されたのは、このエリアの森林が自然回復していることである。

第4階層と第5階層を構成しているのは草木で、射影カバー率は80%を示している。この階層を記述する際、植物種組成の多様性が低いという結論に達した。

調査エリアでは、コケや地衣類等のような階層外の植物が発見された。地衣類の高木の幹への着生率（樹皮に地衣類が生育する頻度）は高く、40%を示していることから、地区の大気環境が安定しているといえる。

調査のとき、7科9種の木が確認された。その中で、3種は低木で、6種は高木であった。

今回の調査により、以下の結論が得られた。

1. この植物群落では、地域の気候の特徴が起因して、満州タイプの植物が圧倒的に多く、9種の樹木が見られた。
2. この植物群落の中で、三つの階層が区別された。その階層の間にはっきりした境界を付けるのは不可能である。このエリアの植生の特徴を決定するのは第2階層の種である。調査エリアの主な特徴は白樺・ヤマナラシ林である。
3. この植物群落の構成の特徴は豊富な種類の低木と多年草である。
4. 分析によって、このエリアで最も繁茂している樹木種は、モンゴリナラ (*Quercus mongolica*)、ヤマナラシ (*Populus tremula* var. *sieboldii*)、オオツノハシバミ (*Corylus sieboldiana* var. *mandshurica*) (白樺)、セイヨウナナカマド (*Sorbus aucuparia*)、イヌエンジュ (*Maackia amurensis*) であることがわかった。
5. この森林は再生された森林の特徴をもっている。おそらく、調査エリアでは森林火災があった地域であると考えられ、これは、土壌の分析によって推定された。土壌の中に炭が発見された。
6. 現在、広葉樹森林が自然回復の過程にある。若木の中に白樺とモンゴリナラが圧倒的に多いため、将来、森林はナラや白樺に置き換わっていくと推定される。
7. 地衣類の樹木の幹への着生率が高いことから、このエリアの大気環境が良好であると評価することができる。

このような調査によって、植物群落の中の変化に気づき、森林の植物についての情報を得ることができる。この活動のおかげで、故郷の植物についてたくさん新しいことを学ぶことができる。

環境調査、植樹などの活動を通して、青少年は専門家に代わって、地方の住民に森林も含めて、天然資源の保全の必要性について普及啓発している。

わたしたちは、他の国の子供たちも積極的に環境保全活動に取り組んでいることをよく知っている。これからも、自分たちのためにも、次世代のためにも一緒に環境を守りましょう。